

ト

家の御印に其名もあらはせ

三馬更ハ戯々書け袖子利あぐ

位付乃大極 色の黒い上まの

作者多し中みあす日の出れ

を番た紋二番こりぬ大を

よの二々の津ふ高く時答ぬ

さるに僕が祖とせよあぐれ

作者めそ教百約の著述あぐ

中み没者評判書出定の

家に傳へく今も僕にあらぬ

年毎に携ふこころあぐれ

名譽の馬の印紙略して師弟は約の盟と
以ども。二七三六は會日ならぬが四書五經
に講釋と稱し。師として學んば其の
なりぬれば弟子として教る決ゆるべし。且
師より又去秋禮儀もいへば弟子の
之文書ふ心とかなり。弟子が師近所
沙通が弟子は夜食の戲作者魂
それおぼしむる物ね寄やら有難さら
小善押まを倡らじう真侶て笑るい
陰裏としはりう身負連中友へ師也
が弟子は影お七尺はぐりもの印紙
柳意馬心猿れ由來分事く學ぶ意馬

を廢て伴う。酒色は街小馳る故は利に
なるお方は目共一心足ぬ馬鹿者と
誇り心猿の筆研弄んで滑筆は家
遊べ。名人上手は諸先生は三年はぬ
戲作者と呼ばるべし。支那は各
千足れ美猿ぬ。我一尺の鼻劇務所
す物も如く。選莫下手は横好且高
覺るは初技文章。神儒佛はどの店
か。何れも四文は小買に成る。せり賣
ては教學生なれぬ。もまへて精出で
氣性れ高下真引下は唯空賣
勉の人能の應ふは隠る。四角の文章

入るも田角の言成身ぶるもどき
こゝろ言入る様はしつゝ
くもよめ笑ひさす悪は活けぬ
地只悪く言入秀白の善く文落す
福むか狂言の福也筆で様は
祝常より多辨の取の筆願め笑ひ
戯作者は本意言願ゆく嗜欲を
辨問れお弟子のなり入條と取取目前
と漁舟の持の場捨の場の心得は傳
ふも錢の病年効ゆ人自いあはれ
文人駿客知。戯場の戯子にたへ生
且両脚淨各神儒佛の老庄は役割の

中ふ戯作者の打諱よりなる不ご看客が
首つら下直する人あはれ利出さふ
けまらぬ。糸瓜はさ不利屋は利はしく
そのなせ。人自ら笑ひあつた儒先生國
学大人からせ。森知せん終蹟は追ふ
秘密は贅の仔細らへ道戯形が優長
の真侶して利居身ま演劇とせふ齋
看官もまあつていふやいふは
はらねに己が才の程を起の老老は用心
せよきつゝのあつて思はれた博識りや
博識り笑ひは只顧文盲のうして白癡を
呪ぬが無事息災これより外は傳授は

若此上もお望まると三ノ日と申す。
近松が院本を講じ。五十九日と約して風
が狂文を論じ。又夫も可合とて案する
る。と例の額せ八の字出で。呵々大笑耳を
はく。予は教諭を得てよとまじく
師弟の盟約はく恒小先生は草庵の傍ら
頃日客者評判記を圖て肇て教のたぐ
ごふ。騒く鳴呼。趣向の新奇あるも自笑
其蹟も筆を瘠く。文辭の自在なれば
自隨。海風果も頭を体也。流行の速き
と穿鑿は深き。西鶴團圓のたぐひ及ぶ
所ふ。ゆび嚮。際可氣質も後痛小野

筆意渾ま書畫を初して芝居幕は外あり。
或は浮世風骨はほ世の人情を穿ち或を
胸襟園に人心早夢を懐く。其他小冊
許すゆれば。つ終の古今も未發の評論
寔に哉。場穿鑿の一大奇書あり。これに
おして先人由良を我平と稱譽する。傲
予は書もばこのあつて一番とる。讚
て曰。呵先生は捷才。淫中は連沙中。金
鑑錢中は文錢。夕子の申は好子。るべし。
意馬のうんぞ。唐と伴ふ。まは後かなんぞ
三幸。是らる。戯作者のうんぞ。や夫意馬の

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is densely packed and spans the width of the page. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is highly stylized and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is densely packed and spans the width of the page. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is highly stylized and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 15 horizontal lines. It contains various characters and symbols, including what appears to be a signature or name at the top right. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language.

Handwritten text in a cursive script, similar to the one above. It is arranged in approximately 15 horizontal lines. The text is dense and contains various characters and symbols, including a signature or name at the top right. The script is consistent with the one in the adjacent block, suggesting they are part of the same document or a related one.

此の世に於ては此の世の代換り今も殺して入れ
 指のよき世に續けしむるもあはれしとて我
 代に世の移りも戻りしむるも面白し今
 して世の移りも戻りしむるも面白し今
 此の世に於ては此の世の代換り今も殺して入れ
 指のよき世に續けしむるもあはれしとて我
 代に世の移りも戻りしむるも面白し今
 して世の移りも戻りしむるも面白し今
 此の世に於ては此の世の代換り今も殺して入れ
 指のよき世に續けしむるもあはれしとて我
 代に世の移りも戻りしむるも面白し今
 して世の移りも戻りしむるも面白し今

此の世に於ては此の世の代換り今も殺して入れ
 指のよき世に續けしむるもあはれしとて我
 代に世の移りも戻りしむるも面白し今
 して世の移りも戻りしむるも面白し今
 此の世に於ては此の世の代換り今も殺して入れ
 指のよき世に續けしむるもあはれしとて我
 代に世の移りも戻りしむるも面白し今
 して世の移りも戻りしむるも面白し今
 此の世に於ては此の世の代換り今も殺して入れ
 指のよき世に續けしむるもあはれしとて我
 代に世の移りも戻りしむるも面白し今
 して世の移りも戻りしむるも面白し今

江戸の人情

江戸の人情

其名の字と酒落と通る者

其名の字と酒落と通る者

其名の字と酒落と通る者

其名の字と酒落と通る者

其名の字と酒落と通る者

其名の字と酒落と通る者

其名の字と酒落と通る者

其名の字と酒落と通る者

其名の字と酒落と通る者

其名の字と酒落と通る者

其名の字と酒落と通る者

其名の字と酒落と通る者

江戸の人情

江戸の人情

江戸の人情

江戸の人情

江戸の人情

江戸の人情

江戸の人情

江戸の人情

江戸の人情

立役之部

立役之部

立役之部

立役之部

▲若女形之部

極上上吉 お宿さぐり

浮虚

霞のり月仕まひお氣をいひまじり

上上吉 心新造

調達

まじりつら茶をいへりてはDASIS

上上吉 お嬢

柔和

お嬢と名をいひていそいそいそいそ

上上吉 むさめ

温良

いそいそいそいそいそいそいそいそ

上上吉 おのこさん

若樂

ふじむいそいそいそいそいそいそ

上上吉 かくら左衛門

俠氣

芝居のうきまを命のうきまを

上上 下

女 夢中

朝飯をちまうふいそいそいそいそ

上 田舎もも井蛙

上山おどり 無我

▲花車形之部

上上吉 岩友ど

威權

いそいそいそいそいそいそいそ

上上士 姥老

邪曲

あふあふあふあふあふあふあふ

上上士 親

老実

おののけのりふいそいそいそいそ

上 かくさん

優長

あふあふあふあふあふあふあふ

上 上

質朴

おののけのりふいそいそいそいそ

上上 市宿

飲樂

あふあふあふあふあふあふあふ

上 地おのれ子依

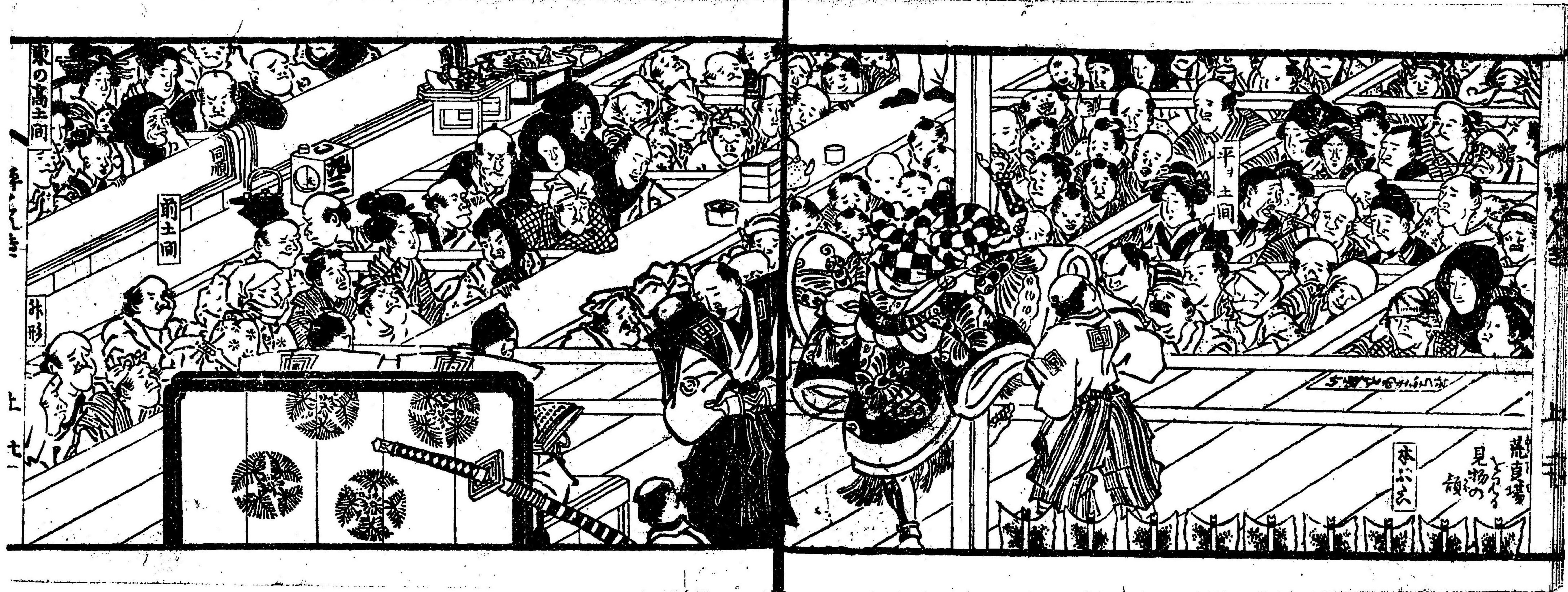
難儀

あふあふあふあふあふあふあふ

上 上

迷惑

あふあふあふあふあふあふあふ



東の高土間

前土間

平土間

本場

見物の顔

上
七





めいどま場とるる体

ぬれる湯の
え物とちりる

三馬

まのけり
まのけり
まのけり
まのけり

ま今専三馬

まのけり
まのけり
まのけり
まのけり

まのけり
まのけり
まのけり
まのけり

花の
顔の

引ふ松
びんねる
はらけ

敷棧向



ちりほひ見侍

高きものよる

徳亭三孝

幕の内とやら

ちりほひ見侍

ちりほひ見侍

ちりほひ見侍

ちりほひ見侍

ちりほひ見侍

腹筋と

ちりほひ見侍

ちりほひ見侍

ちりほひ見侍

ちりほひ見侍

ちりほひ見侍

ちりほひ見侍

ちりほひ見侍

四



四

四

四

江戸の子守歌

江戸の子守歌

江戸の子守歌

江戸の子守歌

江戸の子守歌

江戸の子守歌

江戸

江戸

花の児まゝ

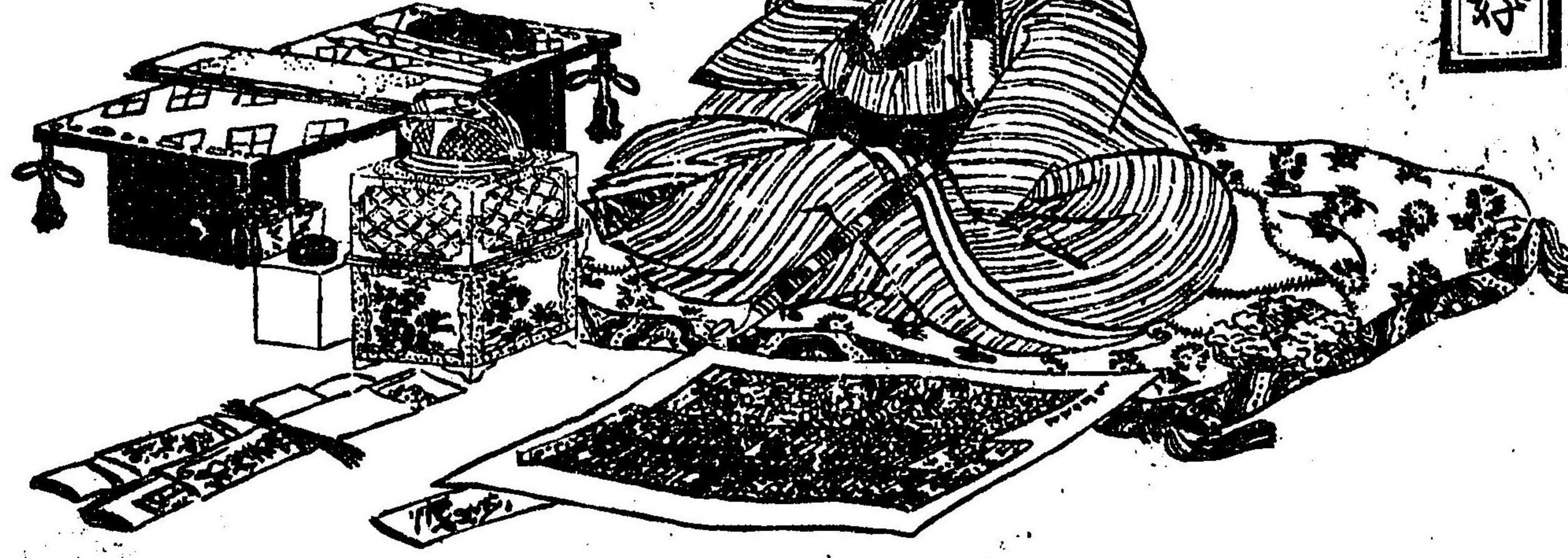
各別

江戸

江戸

江戸

江戸



今も巻物の中へ奉仕の馬がたて居る。今
 かねては、その馬がたて居る。今
 及ぶ。今も、その馬がたて居る。今
 京の、その馬がたて居る。今
 かねては、その馬がたて居る。今
 及ぶ。今も、その馬がたて居る。今
 京の、その馬がたて居る。今
 かねては、その馬がたて居る。今
 及ぶ。今も、その馬がたて居る。今
 京の、その馬がたて居る。今

今も巻物の中へ奉仕の馬がたて居る。今
 かねては、その馬がたて居る。今
 及ぶ。今も、その馬がたて居る。今
 京の、その馬がたて居る。今

上方の芝居好

今も巻物の中へ奉仕の馬がたて居る。今
 かねては、その馬がたて居る。今
 及ぶ。今も、その馬がたて居る。今
 京の、その馬がたて居る。今



今も巻物の中へ奉仕の馬がたて居る。今
 かねては、その馬がたて居る。今
 及ぶ。今も、その馬がたて居る。今
 京の、その馬がたて居る。今
 かねては、その馬がたて居る。今
 及ぶ。今も、その馬がたて居る。今
 京の、その馬がたて居る。今

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is densely packed and covers most of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. It includes several lines of text with some annotations or corrections.

Vertical text on the left margin, possibly a page number or reference.

Vertical text on the left margin, possibly a page number or reference.

場が... 先練物... 一年... 直の... 掛車... 五... 利... 虚...

身... 虚... と... じ... 上... の... ト... 合... と... 享... 享... の...

ひらひらとあつちやうと入る。まじりあつちやうと入る。
 上へあつちやうと入る。まじりあつちやうと入る。
 上へあつちやうと入る。まじりあつちやうと入る。
 上へあつちやうと入る。まじりあつちやうと入る。
 上へあつちやうと入る。まじりあつちやうと入る。
 上へあつちやうと入る。まじりあつちやうと入る。
 上へあつちやうと入る。まじりあつちやうと入る。
 上へあつちやうと入る。まじりあつちやうと入る。
 上へあつちやうと入る。まじりあつちやうと入る。
 上へあつちやうと入る。まじりあつちやうと入る。

客者譯判記卷之上

明治十六年五月二日翻刻御届 定價八錢

著者 故人 式亭三馬

原版主 岡田茂兵衛

翻刻人 大坂府平民 西野駒太郎

東區北久宝寺甲
四丁目三十九番地

賣捌人 大愿齋橋北久宝寺甲 前川支鋪

本書二ノ卷三ノ卷引續出版可仕候
間不相變御愛顧奉願上候

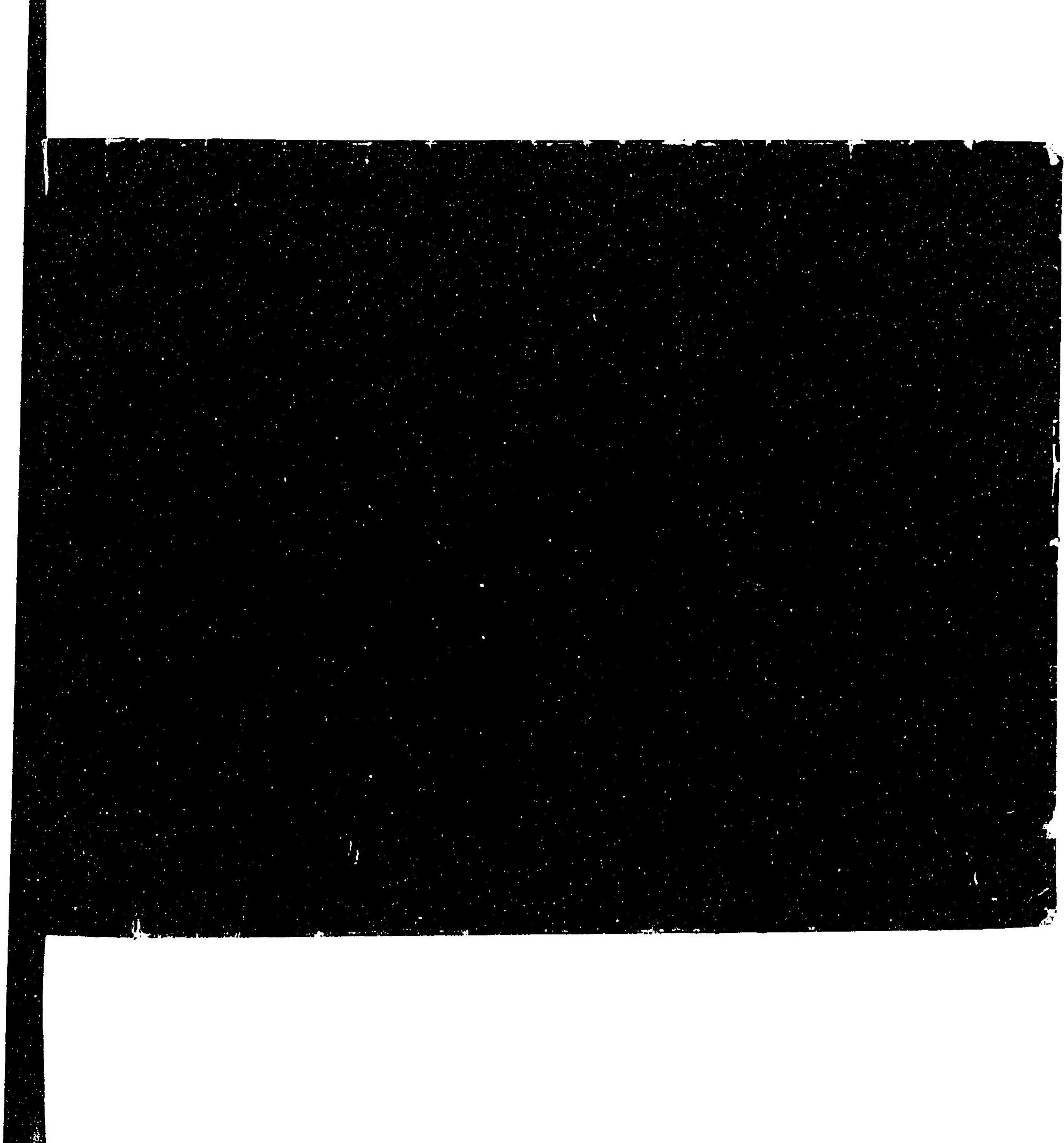
新味 四季の活と花 お中全一冊定價十錢

明治冠附たね袋 お中全一冊定價十錢

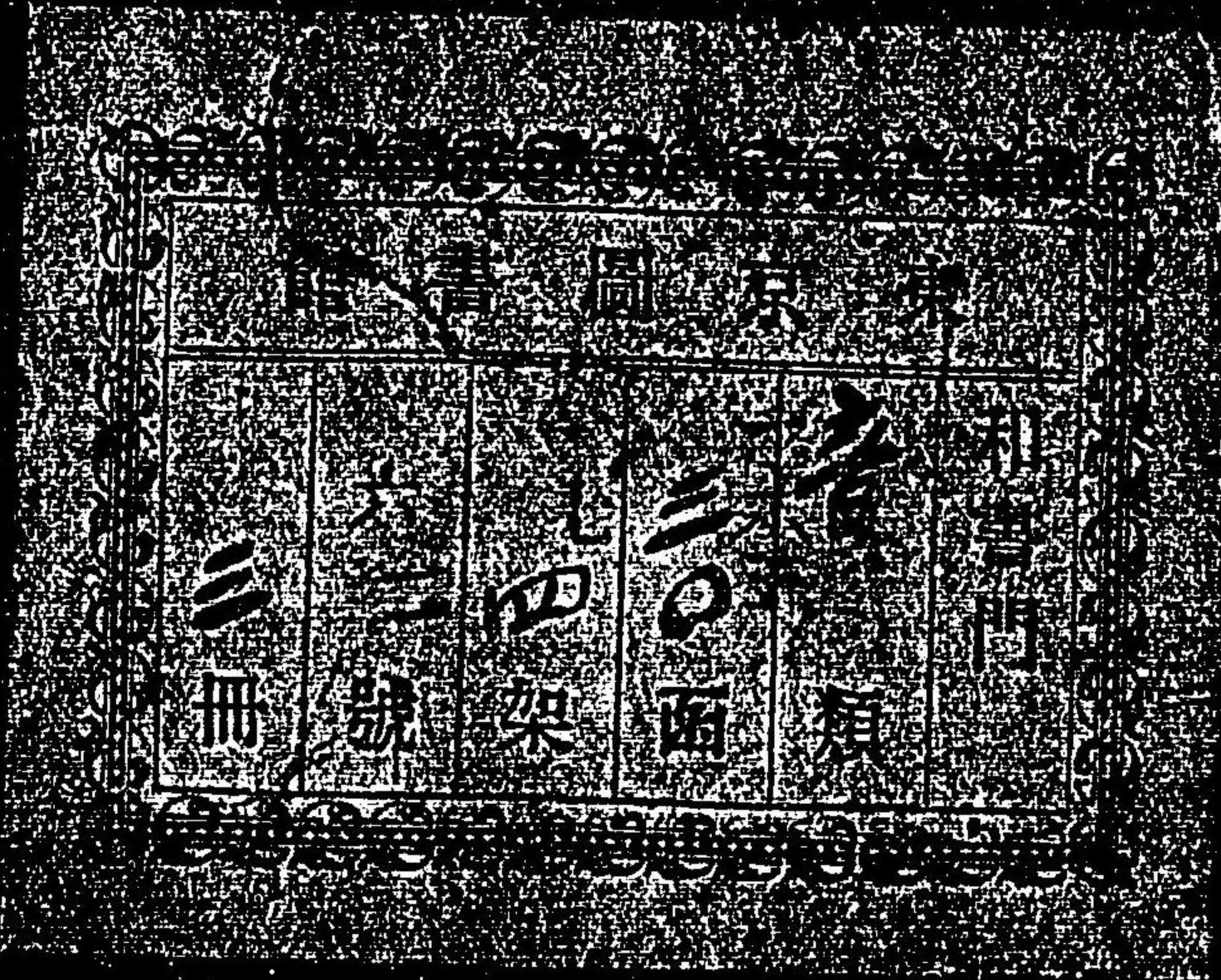
俳諧季寄程袋 全一冊定價十錢

俳諧浦と玉蒲 全一冊定價十錢

俳諧を伴へて



165
62



074782-001-7

165-62

客者評判記

式亭 三馬/著

上

M16

CEK-0083



165

62

東 京 圖 書 館

和書門

音

類

三〇

函

四架

六二

號

三冊